

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	竹野純一郎
所属機関名	教育学部 中等教育学科
職位	教授
在籍年	7 年

教育の責任

私は現在、岡山理科大学教育学部中等教育学科に所属している。学科の専門教育において、英語教育分野および教職関連の科目を担当している。今回のティーチング・ポートフォリオでは英語教育分野に関連する科目を取り上げる。

英語科教育に関する主要な科目は以下のとおりである。

「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅲ」「英語科教育法Ⅳ」
「英語科教育の内容と実践」

教育の理念

教育の理念は、以下の能力を兼ね備えた英語教員を育成することである。

- ・実際の授業実践の観察から、その特徴や工夫点を学び、それらを参考にしながら、自らの授業における知識と授業実践力を関連付けられる。
- ・学んだ英語表現を実際の模擬授業に応用することができる。
- ・4 技能 5 領域を統合的に織り交ぜた授業をデザインし、その妥当性について説明することができる。
- ・自己研修を重ねていく教師としての資質を身につけ、その方策について述べることができる。

教育の方法・方針

英語科教育に関する担当科目では、以下の方針や方法に努めている。

- ・プレゼンテーション能力の育成：
教師の基礎素養である「伝える力」を磨くため、発表機会を積極的に設定することで、人前で説得力を持って話す態度と表現力を養う。
- ・理論の理解と言語化：
習得した理論の理解度を確認し、自身の考えを論理的に言語化するためのレポート作成能力を高める。
- ・英語による発信力の強化（生成 AI の活用を含む）：
生成 AI 等の ICT ツールを効果的に活用して英語で表現することへのためらいをなくし、自らの考えを積極的に発信する姿勢と英語を「使う」意識を養う。
- ・理論と実践の往還：
教授法の背景にある言語習得理論を学び、理論と現場での実践を相互に結びつけた確かな指導技術を習得する。
- ・英語による授業実践の追求：
現行学習指導要領に基づき、「英語で授業を行う」ことを原則とした模擬授業に繰り返し挑み、現場で通用する実践力を養う。

- ・指導案の作成技術の向上：
徹底した教材研究を行い、過去の優れた学習指導案を「生きた手本」として活用することで、学習者の実態に即した質の高い指導計画を立案する力を身につける。
- ・指導プロセスの改善と充実：
タスク前の準備時間を十分にとった指導計画の導入により、学習者の理解と主体的な参加を促し、より質の高い発話実践へと導く。
- ・同学年でのピア・ラーニング：
発表や模擬授業において相互リフレクションを行い、建設的なフィードバックを送り合うことで、互いの実践力を高め合う。
- ・学年間のピア・ラーニング：
教育実習を経験した4年生が3年生を指導・助言する体制を整え、現場での実体験に基づく実践的な知見を継承する。
- ・授業参観による実践知の吸収：
現職の熟練教員による授業を参観し、高度な指導技術や教室経営を肌で感じることで、教師としての志を確立し、実践的な洞察力を養う。

教育の成果

- ・スピーキング活動の改善と定着：
準備型スピーキング活動の導入により、学生の学習意欲を高め、高い満足度を伴う主体的な発話実践を実現した。
- ・外部授業参観による実践評価：
熟練教員による授業参観の実施を通じて、学生の学習意識を向上させるとともに、実践的な学びの場を提供した点で評価を得た。
- ・指導プロセスの改善：
タスク前の準備時間を十分に確保する指導計画の導入により、学習者の理解度と参加意欲の向上を確認した。

今後の目標

- ・英語教育の授業モデル構築と教員養成への展開：
日本人学習者の習得プロセスに即した指導法を研究し、生成 AI 等の活用で発話の質を高めるだけでなく、学習者が英語を主体的に探究してその成果を実践に活かそうとする前向きな姿勢を育みたい。こうした教育研究から得られた知見を、次世代の教員養成カリキュラムの充実に反映させたい。

根拠資料

- ・シラバス ・授業課題（レポート） ・授業スライド ・模擬授業相互評価ルーブリック
- ・模擬授業コメントシート ・学習指導案 ・英語授業参観行程表 ・英語授業参観コメント
- ・授業評価アンケート